

# 経済・金融 フラッシュ

## 米9月ISM指数：製造業・非製造業指数とも50台を維持

経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

### 1、製造業指数は51.6、非製造業は53.0、ともに市場予想は上回る

企業のセンチメントを示すISM（米供給管理協会）指数では、9月製造業指数（PMI）が51.6と前月（50.6）比で1.0ポイント上昇、市場予想（50.5）を上回った。前月まで連月で低下、製造業の拡大・縮小の分かれ目となる50に急接近しており、一息入れた形となった。

PMIは、金融危機後の2008年12月に33.3とリセッション後のボトムを記録した後、2009年8月には50を回復、今回で50越えは26ヵ月連続となる。ただし、4月までは4ヵ月連続で60台の高水準を維持していたことを考慮すると、最近の景況感水準の低下は大きい。

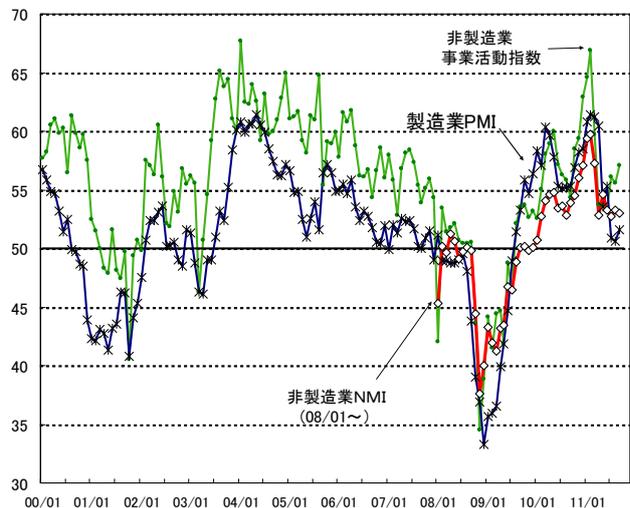
なお、9月のPMIを除く製造業10指数の動きを見ると、6指数が上昇、3指数が下落となった。

また、発表元のISMでは、過去のデータから見たPMIが示す経済全体の分かれ目（GDPのゼロ成長）は42.5であり、9月水準（51.6）は実質GDPの年率3.2%に対応する水準としている。

一方、9月非製造業指数（NMI）は53.0と前月比▲0.3ポイント下落したものの、市場予想（52.8）は上回った。4月以降53前後の狭い範囲で横ばい的な動きが続いているが、非製造業の業況の分かれ目となる50は22ヵ月連続で上回った。9月のNMIを除く10指数の動きを見ると、4指数が上昇、6指数が下落した。NMIを構成する4指数（事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延）では事業活動と新規受注が上昇、そのほかの指数では、受注残と在庫センチメント指数が上昇、指数全体での最高値は価格指数の61.9、最低値は輸入の47.5だった。

製造業（PMI）と非製造業（NMI）の動きを比較すると、2009年7月以降はPMIがNMIを上回って推移しており、製造業のセンチメント回復が先行していた。これは、非製造業指数には

（図表1） ISM指数の推移（月別）



（資料）Institute for Supply Management、以下も同じ。

住宅バブル崩壊や金融危機等の影響が大きい金融、不動産・建設、個人消費関連産業等が含まれることにもよるが、今年5月にはほぼ2年ぶりに製造業が下回り、7月以降は3ヵ月連続で製造業が下回るなど、今回の減速下では製造業のセンチメント悪化が先行した形となっている。

なお、ISMに寄せられた回答には、製造業では、事業が停滞気味、需要が弱い、とのコメントの他、日本のサプライチェーン問題は収束したが為替と原材料価格が利益を圧迫（輸送機器業）と言ったものも見られた。また、非製造業でも、次に何が起こるか注視している、景気改善の兆候は無い、とするものなど先行きへの警戒等を示すものが多くなっている。

### （各指数別の動向）

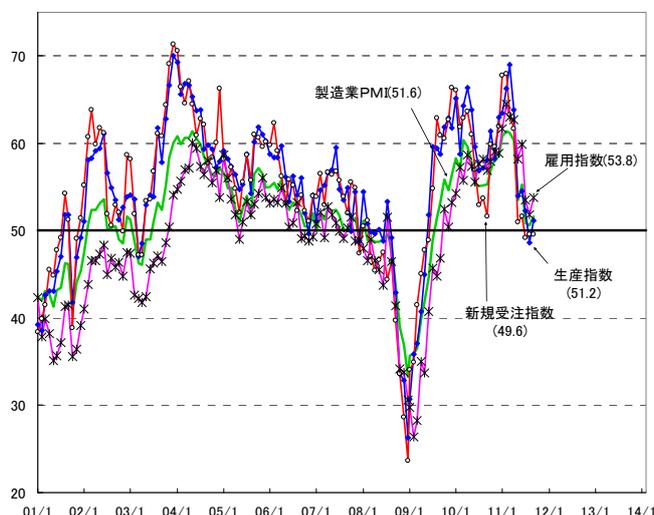
## 2、製造業各指数では、受注指数が3ヵ月連続で50を下回る

PMIの構成5指数（新規受注、生産、雇用、入荷遅延、在庫）では、生産が51.2と2.6ポイント上昇して2ヵ月ぶりに50を回復、雇用が53.8と2.0ポイント上昇するなど3指数が上昇した。半面、在庫が52.0と▲0.3ポイント下落した。

また、新規受注が49.6と前月と同値となり、構成5指数の中では唯一50を下回った。同指数の50割れは3ヵ月連続、それ以前との比較では2009年6月(48.9)以来の低水準となる。先行的な意味合いの強い同指数の低下が、引き続き先行きのセンチメント低下を懸念させる。

その他では輸出指数が3.0ポイントと上昇が大きかった半面、受注残指数が▲4.5ポイントと低下幅が大きく、水準も41.5と全体の最低値となった。なお、最高値は価格指数の56.0だった。

（図表2）製造業PMIと主要構成指数の推移



注：月別、（ ）内の数値は2011年9月値

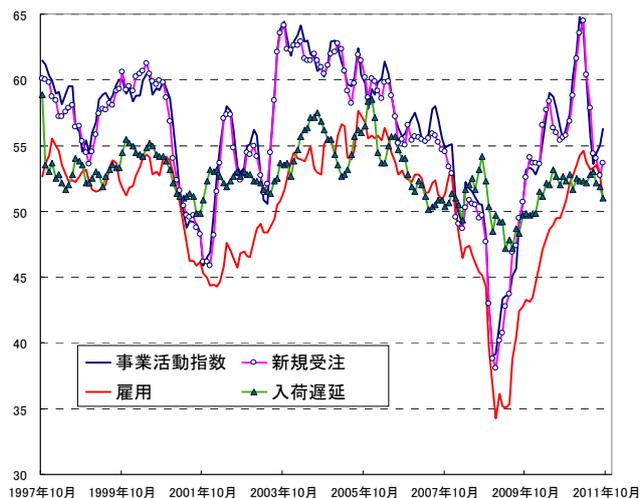
## 3、非製造業各指数では、雇用指数が約1年ぶりに50割れに

9月非製造業各指数の前月比の動きを、総合指数(NMI)を構成する主要4指数(事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延)で見ると、事業活動指数が57.1と前月比1.5ポイント上昇、新規受注指数が56.5と3.7ポイント上昇したのと対照的に、雇用指数が48.7と▲2.9ポイント下落、入荷遅延指数が49.5と▲3.5ポイント下落、いずれも50を下回った。受注の上昇、雇用の下落は製造業指数と逆の動きとなるが、非製造業の雇用指数の50割れは2010年8月(49.5)以来であり、非製造業の幅広い業種を考慮すると、今後の雇用統計の動向が注目される。

一方、事業活動指数は57.1と上昇、3月以来の水準を回復した。活動の増加を回答したのは9業種、低下回答は5業種だった。増加回答に含まれる業種として、鉱業、建設、ヘルスケア、管理・事業支援サービス等が挙げられる。

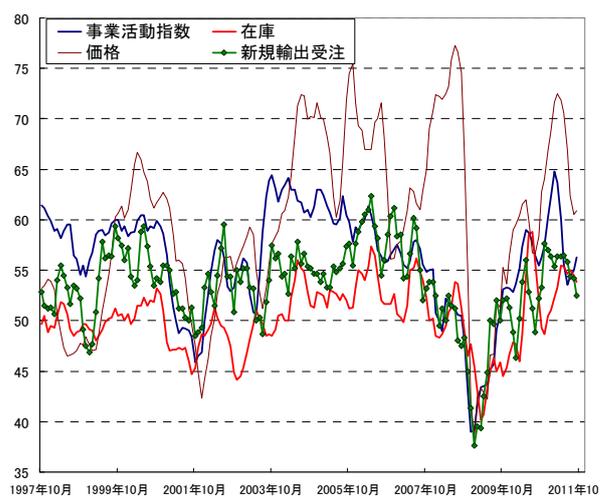
その他の指数では、受注残指数が 52.5（5.0 ポイント）と上昇が大きかった半面、輸出指数が同▲4.5 ポイント下落して 52.0、輸入指数が同▲6.0 ポイント下落して 47.5 となるなど輸出入指数の下落が目立った。

(図表 3) I S M非製造業各指数の推移(その1)



注：3 ヶ月移動平均

(図表 4) I S M非製造業各指数の推移(その2)



注：3 ヶ月移動平均

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。